学校だより　　学校スローガン「殻を破れ！一歩前へ」

# 西有家中 No１１

令和４年　１０月１３日
南島原市立西有家中学校
校長　本多　洋二

## 見事！男女共県大会出場権獲得！

去る１０月６日（木）に南島原市駅伝競走が、諫早市のトランスコスモスタジアムで、雲仙市、大村市三市合同で行われました。女子は全区間２ｋｍの５区間、惜しくも２位でした。男子は全区間３ｋｍの６区間、惜しくも女子同様に２位でした。

男女ともに１１月１０日（木）に開催される県大会に出場します。男女共に優勝を逃した市の大会のリベンジを県大会では果たしてくれることを願っています。そして、悔いの残らない走りを見せてくれることを期待しています。

＜一斉にスタートする女子選手達＞

＜スタートを切る１区林田さん＞

＜スタートの合図を待つ１区の高橋君＞

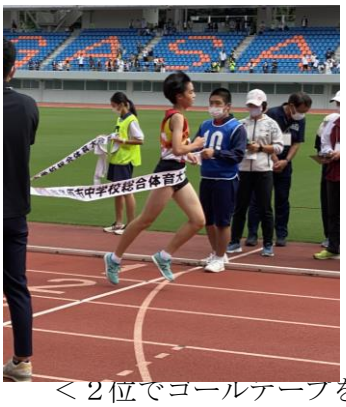
## こんな子いるかな？
## ～発達障がいの子どもたち（その２）～

前号では、ADHD について説明しましたが、本号では、学習障害（LD）について、説明します。LD はラーニング・ディスアビリティーズの略で、学習障害と訳されています。その言葉からも分かるように学習に大きな影響がみられます。

LD で有名なのが、俳優のトム・クルーズです。映画「トップガン」や「ラストサムライ」で主役を演じています。彼は、文字を読んだり書いたりすることが苦手なタイプの LD で、読字障害（ディスレクシア）と言われています。ですから、トム・クルーズは、台本を誰かに読んでもらったものを録音し、それを聞いて覚えるそうです。

LD の多くは、読字障害ですが、算数だけが苦手な算数障害や書くことが苦手な書字表出障害というのもあります。原因ははっきり分かっていませんが、脳の機能障がいと考えられます。

イメージ的には、本棚を思い浮かべてください。本棚が脳だとすると、ある段の棚だけが整理できないという感じになります。だから、前号で記載した ADHD も自閉症スペクトラムも同じですが、決して、本人の努力不足や家庭のしつけの問題ではありません。誰でも算数が苦手だったり、体育が苦手だったりするということはあるはずです。そういう苦手は、みんなあることであり、言わば個性です。ですから、LD もちょっと強い個性だと考えることができます。自閉症スペクトラムについては、機会を捉えてお話しします。



＜２位でゴールテープを切る石橋さん・永吉君＞

## ＰＴＡあいさつ運動

毎月、月初めにＰＴＡ母親部会によるあいさつ運動が実施されています。朝のお忙しい中、正門でのあいさつ運動本当にありがとうございます。生徒たちのあいさつも日に日によくなっています。

## １１月の主な行事予定

１０月２７日（木）総合的な学習発表会
　　合唱コンクール
１１月
　１日（火）ＰＴＡあいさつ運動
　４日（金）～１０日（木）３年３者面談
１０日（木）県駅伝大会（諫早市にて）
１４日（月）～１６日（水）２年修学旅行
２１日（月）定期テスト前部活動停止
２５日（金）２８日（月）２９日（火）
　　期末テスト

## 赤い羽根街頭募金活動に協力！

去る10月1日（日）社会福祉協議会主催の赤い羽根街頭募金活動がAコープ前で行われ、西有家中学校の生徒会9名とサッカー部12名が協力・参加しました。午前中の2時間を生徒会が、午後からの2時間をサッカー部が活動しました。

結果、**9万1885円の募金**が集まりました。例年の3倍の金額が集まり、これまでの最高金額だそうです。生徒の皆さんは休みにもかかわらず良く頑張っていました。

## ブレークコーナ

自分の考えや人の受け売りです。気軽にお読みください。

以前読んだ本に「母の品格」がありました。考えさせられる内容でしたので紹介します。

### 『母の品格』

スーパーマーケットで売られている葡萄を一粒とって、そのまま口に入れた子どもがいました。その様子を見ていた母親はこう言ったそうです。「あっ！ダメ！洗ってないから汚いでしょ！」こんな風に子どもを注意するお母さんがいるのですね。たまたま側にいた店員さんが見かねて、「そんなことされたら困ります」と注意したそうです。するとお母さん。「食べられて困るなら、きちんとラップをして売ってください」と食ってかかったそうです。

最近こんなお母さんがわりとたくさんいるようです。「自分の子どもは悪くない。悪いのは周りの人たち」という理屈にならない理屈を振り回して、子どもをかばっているお母さんたちです。こういうお母さんに育てられる子どもはいったいどうなるのでしょうか。

「ぼく（私）は悪くないもん」という未熟な精神状態のまま大人になってしまった人たちが、果たしてこの国を支えていけるのでしょうか。

葡萄一粒ぐらいで「商品がダメになる」というのは大げさだと思っていたかもしれません。まして、やってしまったのが子どもだということ、でもこれは怖いことです。「やってはいけないこと」に対する感覚がマヒしていくと、やがて「赤信号、みんなで渡れば怖くない」ということを平気で考えるようになってしまいます。確かに皆でやってしまえば、無理矢理にでも通ることはあるでしょう。そうやって上手く世渡りをしている人もいるかもしれません。

でも、お母さんは子どもに「あなたもそうしなさい」と教えられるでしょうか。「可愛い子どもにそんなことは教えられない」というのがお母さんの気持ちではないでしょうか。その気持ちが大切なのです。私はその気持ちが「母の品格」だと思います。

（多湖輝著「母の品格」より）